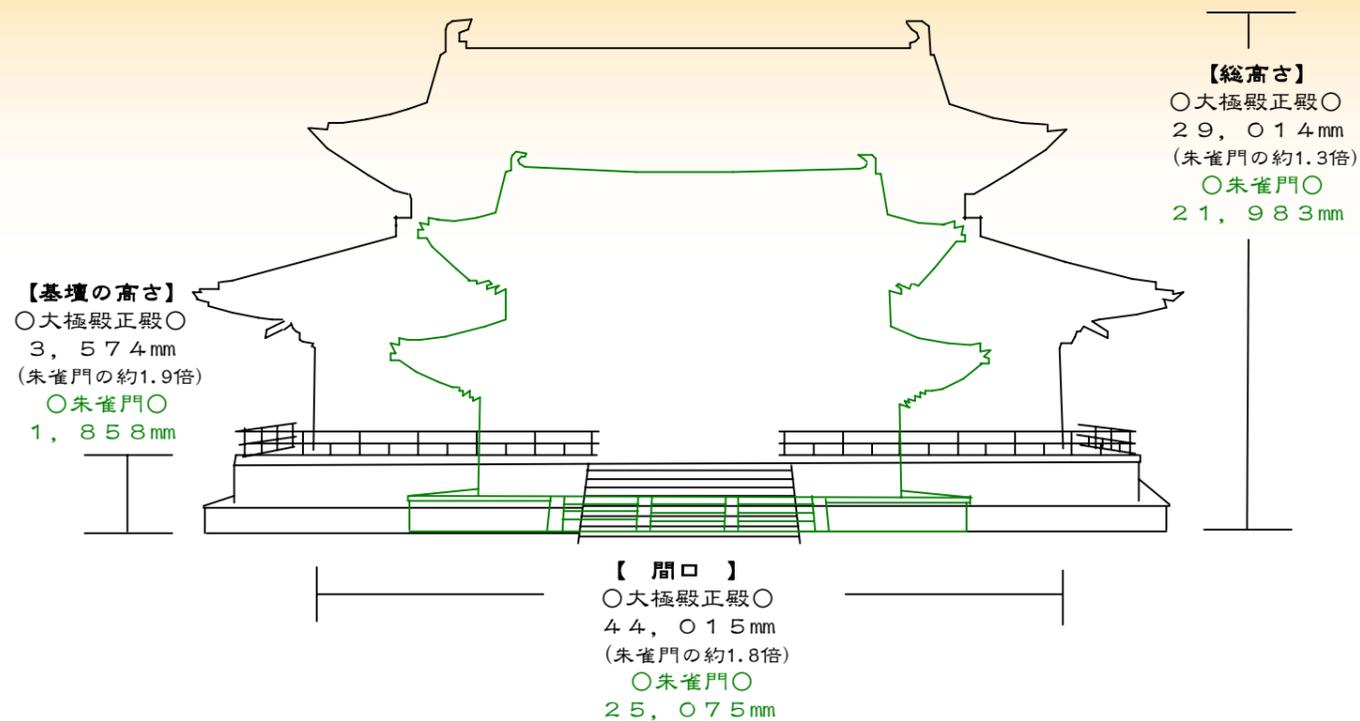
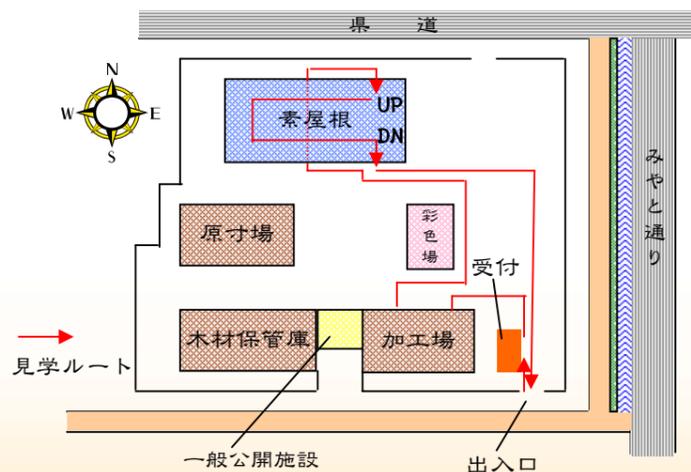


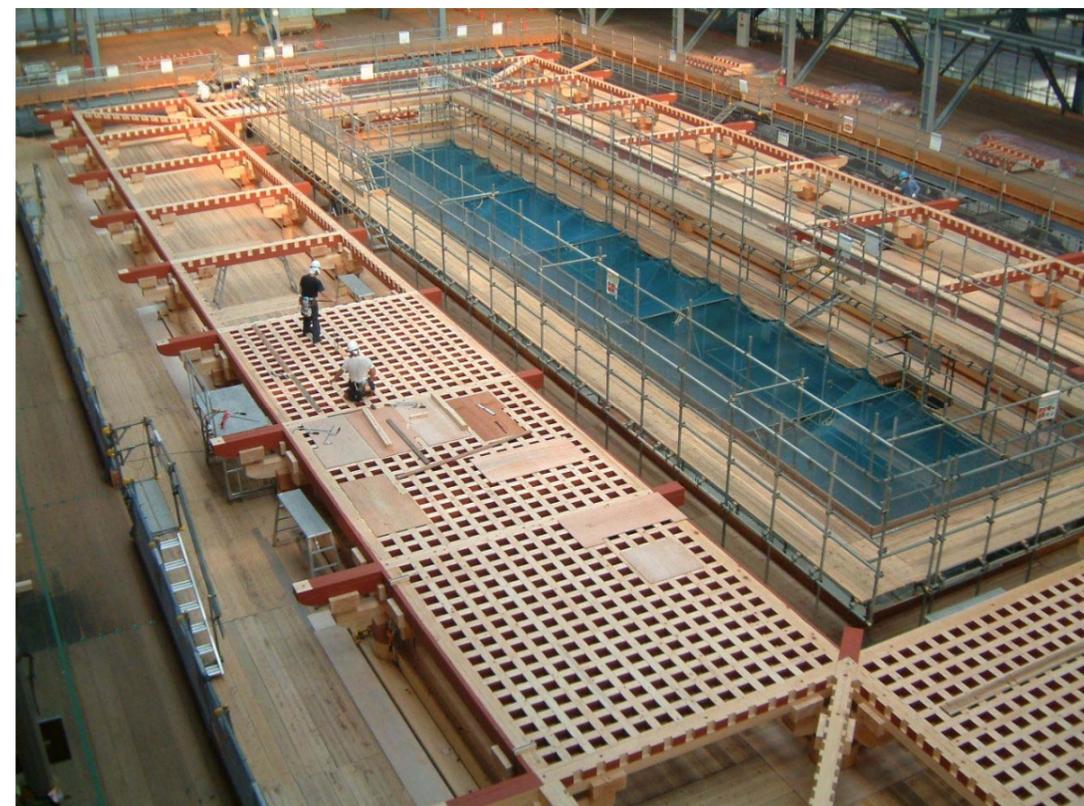
第一次大極殿正殿と朱雀門の比較



現場内 見学ルート



特別史跡 平城宮跡
 第一次大極殿正殿復原整備
 特別公開



平成16年 7月17日(土)～19日(月)

- 主催■ 文化庁 文部科学省 奈良県 奈良市
- 協力■ 独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所
 (財)文化財建造物保存技術協会



特別史跡 平城宮跡第一次大極殿正殿復原 設計概要

平城宮跡第一次大極殿正殿復原は、当時の奈良国立文化財研究所（現独立行政法人 文化財研究所奈良文化財研究所）において、平城宮跡におけるそれまでの研究成果を基に、平成10年度から平成12年度までの3年間で実施設計を行いました。

第一次大極殿正殿復原整備事業は、調査研究の成果を基に奈良時代様式（意匠・構造・材料・工法等）の史実に基づく厳正な復原を目指しています。

『奈良時代様式』での厳正な復原の実施のためには、建築基準法・消防法等の現行の建設関係法令等に適合させるとともに、特別史跡平城宮跡の埋蔵文化財の保護・保存のための処置を実施しています。

埋蔵文化財に対する保護：遺構面上部への盛土（約80cm）

現行法規に対応する設備：免震装置の設置（基壇内部）
 : 自動火災報知設備の設置
 : 屋外消火栓の設置
 : 避雷設備の設置

◆ 木材の加工 ◆

復原工事で使用する木材は、国内産のヒノキ及びケヤキで、主に紀伊半島周辺産のものが搬入されています。

木材は、粗加工された状態で搬入され、木材保管庫で検収・保管・乾燥させた後、復原工事の目的のひとつでもある「伝統技法の保存と育成」の観点から、当時の加工方法の、手斧（ちょうな）による粗成形、槍鉋（やりがんな）、鑿（のみ）などにより仕上げが施されています。



◆ 彩色 ◆

大極殿の軒と天井などには、古代技法に倣って文様彩色が施されます。



工程は、文様彩色を施す前には木地を整えるために「木地固め」を行い、「胡粉塗装」を施して、岩絵具により、文様をひとつひとつ手作業で描きあげていきます。

◆ 柱の加工作業工程 ◆

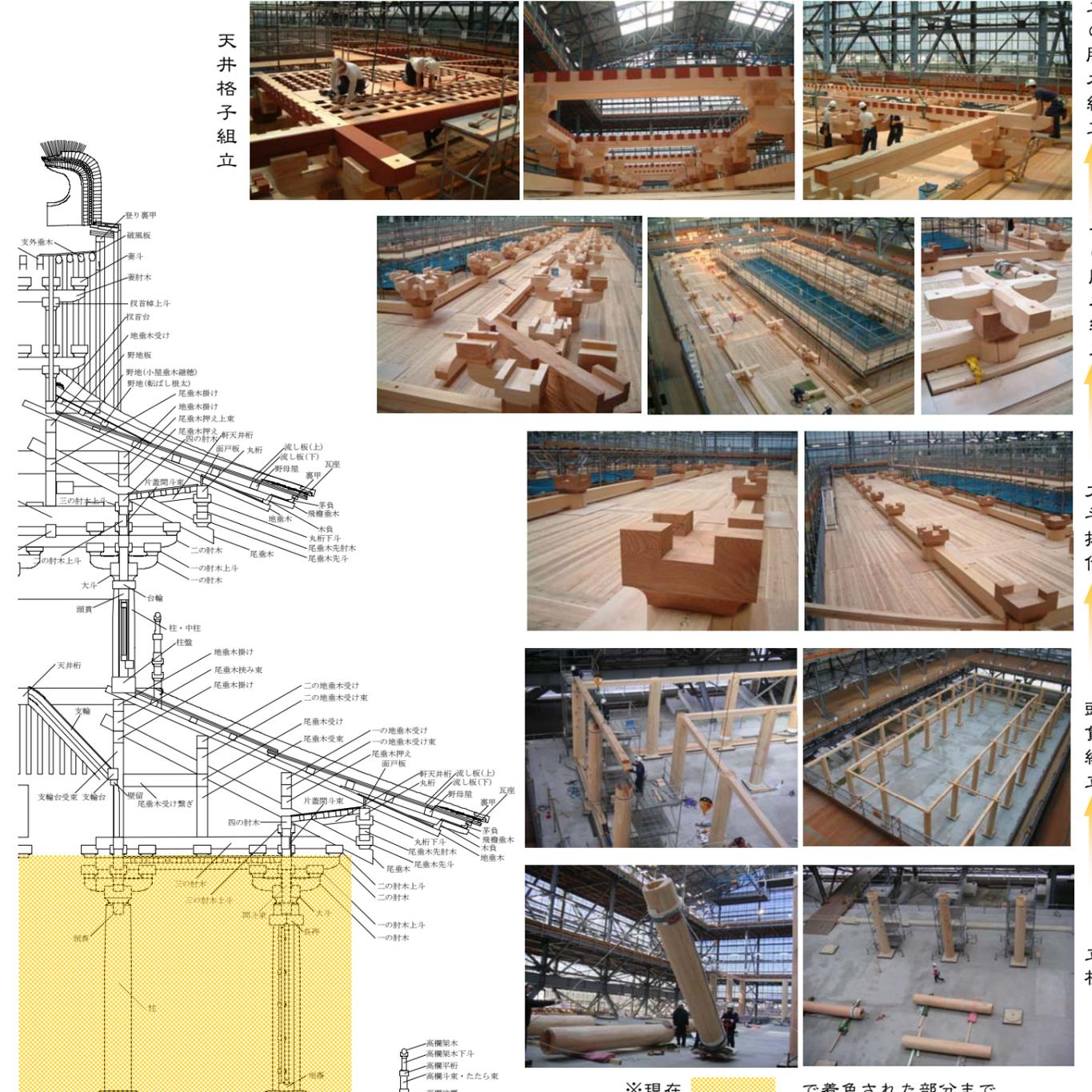
初重の柱は、直径（柱脚）約71cm・高さ約5mで、44本あります。柱はそれぞれ軒の反りに合わせた長さ加工し、柱頭で組み合わせられる「頭貫」との仕口加工の後、表面を槍鉋で仕上げられています。



木材検査 → 木材保管 → 手斧加工 → 頭貫仕口加工 → 墨付け → 絞り加工 → 柱頭曲線加工 → 槍鉋仕上げ

◆ 木材の組立工程 ◆

加工された木材は、柱→頭貫→大斗→一の肘木→二の肘木→天井格子の順に組み立てられます。



主要部材の名称

※現在 [yellow box] で着色された部分まで組立が進んでいます。

